

七卿落ち

【しちきょうおち】

1863年8月18日の政変で公武合体派に敗れて失脚した、尊攘急進派の公卿三条実美（さねとみ）・三條西季知（すえとも）・四條隆詞（たかうた）・東久世道禧（みちとみ）・壬生基修（みぶもとなが）・錦小路頼徳（よりのり）・沢宣嘉（のぶよし）が、京都を脱出して長州藩へ逃れた事件。翌年、再挙を図って「蛤（はまぐり）御門の変」が起こった。

- 幕末辞典 -